



項目	令和7年度 数値目標	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
生徒の学校満足度	85%以上	83.6%	85.2%	85%	89%	91.0%
現役進路決定率	95%以上	96.8%	90.0%	90.1%	94.8%	92.0%
遅刻者数(クラス1日)	1.5人以下	4.1人	2.9人	5.8人	2.9人	2.39人
部活動加入率	70%以上	62%	60%	63%	75%	74%
入学者選抜一次応募倍率	1.20倍以上	0.69	0.88	1.11	0.97	0.82
学校説明会等参加者	1300人以上	1160人	1086人	1294人	871人	983人

令和7年度の取組と自己評価

※自己評価はAからEまでの5段階である。

1 学習活動 自己評価 B

○成果

- ・概ね落ち着いた環境で授業が行うことができている。
- ・学校評価アンケートで『授業内容はわかりやすく工夫され、学力向上に役立っている』という質問に肯定的回答は85%と令和6年度比で7ポイント上昇しており、生徒の満足度が高水準で推移している。
- ・台湾研修旅行の実施及び海外派遣事業(トルコ)への参加により、参加した生徒の国際感覚を醸成することができた。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・研究授業の日を設定し、教職員全体の授業力の向上を図る。
- ・学力向上に向けた体系的な取組ができる体制を整える。
- ・全教科に共通した授業のルールを徹底を図る。
- ・成績上位層及び下位層の指導の充実を図る。
- ・海外研修等の成果発表会を増やすなどしてより多くの生徒への還元できる取組が必要である。

2 進路指導 自己評価 B

○成果

- ・進路決定率が高い水準で推移している。
- ・生徒の満足度は85%、保護者の満足度は73%であり、高い水準で推移している。
- ・卒業課題(総合的な探究の時間)の実施に当たって進路指導部と学年進路担当が連携し、将来のキャリアや進路選択への意識を高めることができた。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・よりきめ細やかな指導を行う条件を整備していく。
- ・遅刻・欠席をしないことについて、1年次から理解させるように指導を充実させる。

3 生活指導 自己評価 B

○成果

- ・装飾品の着用等の異装が低下してきた。
- ・合唱祭等の行事の当日には、多くの生徒が真剣に取り組んだ。
- ・文部科学省から委託された自殺予防教育のプログラムに取り組み、学校全体で成果を共有できた。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・教職員間で方針に基づいた共通の認識を深めていく。
- ・時間を守る等の基本的な生活習慣の確立に向けた指導を引き続き行っていく。
- ・生徒の自律的な活動を継続的・系統的に行っていく。
- ・自殺予防教育を持続的・組織的に取り組めるようにしていく。

4 特別活動・部活動 自己評価 C

○成果

- ・いわゆる三人行事（高槻祭、体育祭、合唱祭）で生徒の力を発揮できた。
- ・公式戦の出場や公式戦での久しぶりの勝利など、練習の成果が結実した部があった。
- ・吹奏楽部、ダンス部、ボランティア部、箏曲部、茶道部等が地域のイベントや交流に取り組んだ。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・教職員の業務量を考慮しつつ、部活動の持続的・継続的な活性化を検討、実行していく。
- ・生徒の力を引き出すために、計画的・組織的な指導を行っていく。

5 健康づくり A

○成果

- ・複数のスクールカウンセラーによる1年生全員面接を実施した。
- ・専門医（産婦人科医）による1学年対象の保健講話と個別面談を実施した。
- ・AED講習会を実施した。
- ・外部特別支援教育心理士の巡回相談の実施により、生徒の心身の健康増進に努めた。
- ・希望調査を実施し、希望に基づいて審査を行った結果、通級を開始することができた。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・スクールカウンセラーや特別支援教育心理師との連携を、情報共有の仕組みを工夫して一層強化していく。
- ・持続的・継続的・組織的な取組となるよう、絶えず改善を図っていく。

6 広報・募集活動 自己評価 B

○成果

- ・全ての教職員が中学校を訪問し、志願者の発掘を行った。
- ・学校説明会等で生徒による説明等の時間を増やし、好評を得た。
- ・ウェブサイトの更新回数を増加させ、本校の長所を発信した。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・志願者が減少し、昨年度に続き、第二次・第三次募集を実施した。ウェブサイト等により本校の特長を広く周知するための取組の充実を図る。

7 学校経営・組織体制 自己評価 B

○成果

- ・毎学期末の振り返りと次の学期に向けて取組を提示し、学校運営の参画意識の向上を図った。
- ・ダンス部の公演で近隣マンションの住民を招待するなど、地域住民とのつながりを深めた。
- ・東村山市立富士見小学校の児童の文化祭への招待、学年を単位としたボランティア活動の実施、ボランティア部による子ども食堂への関与、市の護美プロジェクトへの参加、生徒会による意見交換会の実施等により、地域に根ざした学校のための取組を充実させた。

●令和8年度以降の課題と対応策

- ・地域連携を行っていることを更にアピールしていく。
- ・全教職員のライフ・ワーク・バランスが図れるよう、絶えず業務の見直し等を行っていく。